
禁断の愛ー 1 0 0 回目の告白

知秋一葉

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

禁断の愛―100回目の告白

【Nコード】

N9367C

【作者名】

知秋一葉

【あらすじ】

人生が短い。いつか終わる。この禁断の愛。。。

益々痩せていた剛は、
受験生だった。
成績も落ちている。

「こんなところ、
こんな状態になった。
どうするよ」

と、母ちゃんは心配したくて、
彼を連れて病院に行った。
検査の結果は、
悪いことがなにもなかった。
受験前のストレスって、
病院の先生に言われた。

元々無言の剛は、
話をもっと少なくなった。
家族とも、学校の友達とも。
勉強は全然できなかった。
寝ても覚めても、
あの笑顔が頭に浮んでいる。
「剛くん」

と、その声を聞くと、ドキドキする。

最初から、今まで、
剛は99回決心した。

彼女に告白すること。

しかし、

結局、する寸前に、いくつの理由をみつけて、
勇気をなくしてしなかった。

苦しくて、苦しくて

我慢の限界になった。

剛は決心した。

「母ちゃんが驚いても」

「彼女に断れても」

「友達に嫌われても」

どうでもいい。

自分の気持ちを言い出したい。

剛は決心した、第100回目の告白を。。。

暑い夏。

蝉のすだく声は魔の呪のように、
しつこく耳も心も煩わす。

剛は決心した。

昼休みのときに、会いに行く。
自分の心を表す。

ベルが鳴った。

担任の先生は来なかった。
不祥な予感。

暫く、校長先生は来た。

悪いことを皆に知らせた。

担任の茜先生は、
交通事故で病院に運ばれた。

あんな優しくて明るい先生のに、
こんなことを遭うなんて、
誰でも信じたくない。

急に、教室の温度があがってきた。
最近、体質不良の剛は倒れた。
顔真っ白だった。

秋。

ある雨の日。

新しい墓があった。

一人の男は静かに立っていた。

無言のままの剛だ。

一本の薔薇。

第100回目の告白だった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9367c/>

禁断の愛－100回目の告白

2010年10月25日06時03分発行